

11

¹さて、彼らがエルサレムに近づき、オリブの山に沿ったベテバゲ、ベタニヤの附近にきた時、イエスはふたりの弟子をつかわして言われた、
²「むこうの村へ行きなさい。そこにはいるとすぐ、まだれも乗ったことのないろばの子が、つないであるのを見るであろう。それを解いて引いてきなさい。
³もし、だれかがあなたがたに、なぜそんな事をするのかと言ったなら、主がお入り用なのです。またすぐ、ここへ返してくださいと、言いなさい」。
⁴そこで、彼らは出かけて行き、そして表通りの戸口に、ろばの子がつないであるのを見たので、それを解いた。
⁵すると、そこに立っていた人々が言った、「そのろばの子を解いて、どうするのか」。
⁶弟子たちは、イエスが言われたとおり彼らに話したので、ゆるしてくれた。
⁷そこで、弟子たちは、そのろばの子をイエスのところに引いてきて、自分たちの上着をそれに投げかけると、イエスはその上にお乗りになった。
⁸すると多くの人々は自分たちの上着を道に敷き、また他の人々は葉のついた枝を野原から切ってきて敷いた。
⁹そして、前に行く者も、あとに従う者も共に叫びつづけた、「ホサナ、
 主の御名によってきたる者に、祝福あれ。
¹⁰今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。
 いと高き所に、ホサナ」。
¹¹こうしてイエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてのものを見まわった後、もはや時もおそくなっていたので、十二弟子と共にベタニヤに出て行かれた。

11

¹²翌日、彼らがベタニヤから出かけてきたとき、イエスは空腹をおぼえられた。
¹³そして、葉の茂ったいちじくの木を遠くからごらんになって、その木に何かありはしないかと近寄られたが、葉のほかは何も見当らなかった。いちじくの季節でなかったからである。
¹⁴そこで、イエスはその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がないように」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。
¹⁵それから、彼らはエルサレムにきた。イエスは宮に入り、宮の庭で売り買っていた人々を追いつ出しはじめ、両替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつがえし、
¹⁶また器ものを持って宮の庭を通り抜けるのをお許しにならなかった。
¹⁷そして、彼らに教えて言われた、『わたしの家は、すべての国民の祈の家となえらるべきである』と書いてあるではないか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしてしまった」。
¹⁸祭司長、律法学者たちはこれを聞いて、どうかしてイエスを殺そうと計った。彼らは、群衆がみなその教に感動していたので、イエスを恐れていたからである。
¹⁹夕方になると、イエスと弟子たちとは、いつものように都の外に出て行った。
²⁰朝はやく道をとおっていると、彼らは先のいちじくが根元から枯れているのを見た。
²¹そこで、ペテロは思い出してイエスに言った、「先生、ごらんなさい。あなたがのろわれたいちじくが、枯れています」。
²²イエスは答えて言われた、「神を信じなさい。
²³よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言ひ、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないうで信じるなら、そのとおりに成るであろう。
²⁴そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりに成るであろう。
²⁵また立つて祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださいさるであろう」。
²⁶もしゆるさないならば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださいさらないであろう」」。

11

²⁷彼らはまたエルサレムにきた。そして、イエスが宮の内を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちが、みもとにきて言った、
²⁸「何の権威によってこれらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。
²⁹そこで、イエスは彼らに言われた、「一つだけ尋ねよう。それに答えてほしい。そうしたら、何の権威によって、わたしがこれらの事をするのか、あなたがたに言おう。
³⁰ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか、答えなさい」。
³¹すると、彼らは互に論じて言った、「もし天からだと言えば、では、なぜ彼を信じなかったのか、とイエスは言うだろう」。
³²しかし、人からだと言えば……」。彼らは群衆を恐れていた。人々が皆、ヨハネを預言者だとほんとうに思っていたからである。
³³それで彼らは「わたしたちにはわかりません」と答えた。するとイエスは言われた、「わたしも何の権威によってこれらの事をするのか、あなたがたに言うまい」。

12

¹そこでイエスは譬で彼らに語り出された、「ある人がぶどう園を造り、垣をめぐらし、また酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた」。
²季節になったので、農夫たちのところへ、ひとりの僕を送って、ぶどう園の収穫の分け前を取り立てさせようとした。
³すると、彼らはその僕をつかまえて、袋たたきにし、から手で帰らせた。
⁴また他の僕を送ったが、その頭をなぐって侮辱した。
⁵そこでまた他の者を送ったが、今度はそれを殺してしまった。そのほか、なお大ぜいの者を送ったが、彼らを打ったり、殺したりした。
⁶ここに、もうひとりの者がいた。それは彼の愛子であった。自分の子は敬ってくれるだろうと思って、最後に彼をつかわした。
⁷すると、農夫たちは『あれはあと取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と話し合い、
⁸彼をつかまえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。
⁹このぶどう園の主人は、どうするだろうか。彼は出てきて、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであらう。
¹⁰あなたがたは、この聖書の句を読んだことがないのか。『家造りらの捨てた石が隅のかしら石になった』。
¹¹これは主がなされたことで、わたしたちの目には不思議に見える』。
¹²彼らはいまの譬が、自分たちに当てて語られたことを悟ったので、イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。そしてイエスをそこに残して立ち去った。

12

13 さて、人々はバリサイ人やヘロデ党の者を数人、イエスのもとにつかわして、その言葉じりを捕えようとした。
 14 彼らはきてイエスに言った、「先生、わたしたちはあなたが真実なかとで、だれをも、はばかられないことを知っています。あなたは人に分け隔てをなさらないで、真理に基いて神の道を教えてくださいます。ところで、カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないうでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか」。
 15 イエスは彼らの偽善を見抜いて言われた、「なぜわたしをためそうとするのか。デナリを持ってきて見せなさい」。
 16 彼らはそれを持ってきた。そこでイエスは言われた、「これは、だれの肖像、だれの記号か」。彼らは「カイザルのです」と答えた。
 17 するとイエスは言われた、「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。彼らはイエスに驚嘆した。

18 復活ということはないと主張していたサドカイ人たちが、イエスのもとにきて質問した、
 19 「先生、モーセは、わたしたちのためにこう書いています、『もし、ある人の兄が死んで、その残された妻に、子がない場合には、弟はこの女をめぐって、兄のために子をもうけねばならない』」。
 20 ここに、七人の兄弟がいました。長男は妻をめぐりましたが、子がなくて死に、
 21 次男がその女をめぐって、また子をもうけずに死に、
 22 こうして、七人ともみな子孫を残しませんでした。最後にその女も死にました。
 23 復活のとき、彼らが皆よみがえった場合、この女はだれの妻なのでしょう。七人とも彼女を妻にしたのです」が」。
 24 イエスは言われた、「あなたがたがそんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからではないか。
 25 彼らが死人の中からよみがえるときには、めとったり、とついたりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである」。
 26 死人がよみがえることについては、モーセの書の柴の篇で、神がモーセに仰せられた言葉を読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。
 27 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。あなたがたは非常な思い違いをしている」。

12

28 ひとりの律法学者がきて、彼らが互に論じ合っているのを聞き、またイエスが巧みに答えられたのを認めて、イエスに質問した、「すべてのいましめの中で、どれが第一ののですか」。
 29 イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。』
 30 心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ」。
 31 第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない」。
 32 そこで、この律法学者はイエスに言った、「先生、仰せのとおりです、『神はひとりであって、そのほかに神はない』と言われたのは、ほんとうです」。
 33 また「心をつくし、知恵をつくし、力をつくして神を愛し、また自分を愛するように隣り人を愛する」ということは、すべての燔祭や犠牲よりも、はるかに大事なことです」。
 34 イエスは、彼が適切な答をしたのを見て言われた、「あなたは神の国から遠くない」。それから後は、イエスにあえて問う者はなかった。

35 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか」。
 36 ダビデ自身が聖霊に感じて言った、『主はわが主に仰せになった、
 あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、わたしの右に座していなさい』。
 37 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。
 大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。
 38 イエスはその教の中で言われた、「律法学者に気をつけなさい。彼らは長い衣を着て歩くことや、広場であいさつされることや、
 39 また会堂の上席、宴会の上座を好んでいる」。
 40 また、やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。彼らはもつときびしいさばきを受けるであらう」。
 41 イエスは、さいせん箱にむかつてすわり、群衆がその箱に金を投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持は、たくさん金を投げ入れていた。
 42 ところが、ひとりの貧しいやもめがきて、レプタ二つを入れた。それは一コドラントに当る。
 43 そこで、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ」。
 44 みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである」。

13

1 イエスが宮から出て行かれるとき、弟子のひとりが言った、「先生、ごらんさない。なんとという見事な石、なんと立派な建物でしょう」。

2 イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないまま、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。

3 またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ねした。

4 「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがごとごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。

5 そこで、イエスは話しはじめられた、「人に惑わされないように気をつけなさい。

6 多くの者がわたしの名を名づけて現れ、自分がそれだと言って、多くの人を惑わすであろう。

7 また、戦争と戦争のうわさとを聞くときにも、あわてるな。それは起らねばならないが、まだ終りではない。

8 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに地震があり、またきんが起るであろう。これらは座みの苦しみの初めである。

9 あなたがたは自分で気をつけていなさい。あなたがたは、わたしのために、衆議所に引きわたされ、会堂で打たれ、長官たちや王たちの前に立たされ、彼らに対してあかしをさせられるであろう。

10 こうして、福音はまずすべての民に宣べ伝えられねばならない。

11 そして、人々があなたがたを連れて行って引きわたすとき、何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るのがよい。語る者はあなたがた自身ではなくて、聖霊である。

12 また兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、子は両親に逆らって立ち、彼らを殺させるであろう。

13 また、あなたがたはわたしの名のゆえに、すべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

14 荒らす憎むべきものが、立つてはならぬ所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。

15 屋上にいる者は、下におりな。また家から物を取り出そうとして内にはいるな。

16 畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。

17 その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。

18 この事が冬おこらぬように祈れ。

19 その日には、神が万物を造られた創造の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような患難が起るからである。

20 もし主がその期間を縮めてくださらないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選ばれた選民のために、その期間を縮めてくださったのである。

13

21 そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、『見よ、あそこにいる』と言っても、それを信じるな。

22 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。

23 だから、気をつけていなさい。いっさいの事を、あなたがたに前もって言うておく。

24 その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、

25 星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。

26 そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。

27 そのとき、彼は御使たちをつかわして、地のはてから天のはてまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。28 いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。

29 そのように、これらの事が起るのを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

30 よく聞いておきなさい。これらの事が、ごとごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。

31 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。

32 その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。33 気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである。

34 それはちょうど、旅に立つ人が家を出るに当り、その僕たちに、それぞれ仕事を割り当てて責任をもたせ、門番には目をさましておれと、命じるようなものである。

35 だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。

36 あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。

37 目をさましていなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである」。